NHK大河ドラマの歴史を振り返ってみました

2025年10月号
べらぼう通信
〒162-0832
東京都新宿区岩戸町12
レベッカビル2F
有限会社
べら出版
TEL：03-5225-4790
FAX：03-5225-4795

1925年3月に国内初のラジオ放送が始まってから100年の節目ということもあり、今年は多くの記念特番が放送されました。長きに渡る放送文化を振り返ると、本当にたくさんの番組が生まれてきたのだなぁ…と実感するのですが、その中でも「長寿番組」の代表といえるのが、NHKの大河ドラマではないでしょうか。そこで今回は、初代作品から最新作（2026年放送予定）まで、大河ドラマの歴代作品を一覧できるようまとめてみました。歴史好きな方はもちろんですが、普段あまり歴史に関心がない方でも楽しめるのが大河ドラマです。年明けから公式ガイドブックを展開されるところも多いかと思いますが、最新作だけでなく、歴代作品の関連書を集めたフェアをされるのも面白いかもしれません。その際には本企画をぜひご参考になさってください。

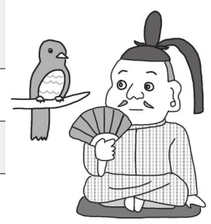
放送年	タイトル	●主人公（俳優） ●時代
1963年	「花の生涯」	●井伊直弼（２代目尾上松緑） ●江戸
1964年	「赤穂浪士」	●大石内蔵助（長谷川一夫） ●江戸
1965年	「太閤記」	●豊臣秀吉（緒形拳） ●室町～安土桃山
1966年	「源義経」	●源義経（４代目尾上菊之助） ●平安～鎌倉
1967年	「三姉妹」	●永井家三姉妹（岡田茉莉子／藤村志保／栗原小巻） ※架空の人物 ●江戸～明治
1968年	「竜馬がゆく」	●坂本竜馬（北大路欣也） ●江戸
1969年	「天と地と」	●上杉謙信（石坂浩二） ●室町
1970年	「樅ノ木は残った」	●原田甲斐（平幹二朗） ●江戸
1971年	「春の坂道」	●柳生宗矩（中村錦之助） ●安土桃山～江戸
1972年	「新・平家物語」	●平清盛（仲代達矢） ●平安～鎌倉
1973年	「国盗り物語」	●斎藤道三（平幹二朗）／織田信長（高橋英樹） ●室町～安土桃山
1974年	「勝海舟」	●勝海舟（渡哲也→松方弘樹） ※急病により途中交代 ●江戸～明治
1975年	「元禄太平記」	●柳沢吉保（石坂浩二） ●江戸
1976年	「風と雲と虹と」	●平将門（加藤剛） ●平安
1977年	「花神」	●大村益次郎（中村梅之助） ●江戸～明治
1978年	「黄金の日日」	●呂宋助左衛門（市川染五郎※現・松本白鸚） ●安土桃山～江戸
1979年	「草燃える」	●北条政子（岩下志麻） ●平安～鎌倉
1980年	「獅子の時代」	●平沼銑次（菅原文太）／苅谷嘉顕（加藤剛） ※架空の人物 ●江戸～明治
1981年	「おんな太閤記」	●ねね（佐久間良子） ●室町～江戸
1982年	「峠の群像」	●大石内蔵助（緒形拳） ●江戸
1983年	「徳川家康」	●徳川家康（滝田栄） ●室町～江戸

記念すべき大河ドラマ初作品

『花の生涯』
- 全２巻
- 舟橋 聖一
- 祥伝社文庫

初のカラー作品

『天と地と』
- 全３巻
- 海音寺 潮五郎 著
- 文春文庫



放送年	タイトル	●主人公（俳優） ●時代
1984年	「山河燃ゆ」	●天羽賢治（松本幸四郎※現・松本白鸚）／天羽忠（西田敏行）※架空の人物 ●昭和
1985年	「春の波涛」	●川上貞奴（松坂慶子） ●明治～昭和
1986年	「いのち」	●磐田未希（三田佳子）※架空の人物 ●昭和
1987年	「独眼竜政宗」	●伊達政宗（渡辺謙） ●安土桃山～江戸
1988年	「武田信玄」	●武田信玄（中井貴一） ●室町～安土桃山
1989年	「春日局」	●春日局（大原麗子） ●安土桃山～江戸
1990年	「翔ぶが如く」	●西郷隆盛（西田敏行）／大久保利通（鹿賀丈史） ●江戸～明治
1991年	「太平記」	●足利尊氏（真田広之） ●鎌倉～室町
1992年	「信長 KING OF ZIPANGU」	●織田信長（緒形直人） ●室町～安土桃山
1993年 1月～6月	「琉球の風」	●啓泰（東山紀之）※架空の人物 ●江戸
1993年 7月～1994年 3月	「炎立つ」	●藤原経清（渡辺謙）／藤原清衡（村上弘明）／藤原泰衡（渡辺謙※２役） ●平安～鎌倉
1994年 4月～12月	「花の乱」	●日野富子（三田佳子） ●室町
1995年	「八代将軍 吉宗」	●徳川吉宗（西田敏行） ●江戸
1996年	「秀吉」	●豊臣秀吉（竹中直人） ●室町～安土桃山
1997年	「毛利元就」	●毛利元就（中村橋之助） ●室町
1998年	「徳川慶喜」	●徳川慶喜（本木雅弘） ●江戸～明治
1999年	「元禄繚乱」	●大石内蔵助（５代目中村勘九郎） ●江戸
2000年	「葵 徳川三代」	●徳川家康（津川雅彦）／徳川秀忠（西田敏行）／徳川家光（尾上辰之助） ●江戸
2001年	「北条時宗」	●北条時宗（和泉元彌） ●鎌倉
2002年	「利家とまつ ～加賀百万石物語～」	●前田利家（唐沢寿明）／まつ（松嶋菜々子） ●室町～安土桃山

平均視聴率39.7%は歴代最高

『伊達政宗』
- 全８巻
- 山岡 荘八 著
- 講談社文庫

初の２部構成作品

『翔ぶが如く』
- 全10巻
- 司馬遼太郎
- 文春文庫

放送年	タイトル	●主人公（俳優） ●時代
2003年	「武蔵 MUSASHI」	●宮本武蔵（７代目市川新之助） ●安土桃山～江戸
2004年	「新選組！」	●近藤勇（香取慎吾） ●江戸
2005年	「義経」	●源義経（滝沢秀明） ●平安～鎌倉
2006年	「功名が辻」	●千代（仲間由紀恵）／山内一豊（上川隆也） ●安土桃山～江戸
2007年	「風林火山」	●山本勘助（内野聖陽） ●室町～安土桃山
2008年	「篤姫」	●篤姫（宮﨑あおい） ●江戸～明治
2009年	「天地人」	●直江兼続（妻夫木聡） ●室町～江戸
2010年	「龍馬伝」	●坂本竜馬（福山雅治） ●江戸
2011年	「江～姫たちの戦国～」	●江（上野樹里） ●安土桃山～江戸
2012年	「平清盛」	●平清盛（松山ケンイチ） ●平安～鎌倉
2013年	「八重の桜」	●新島八重（綾瀬はるか） ●江戸～昭和
2014年	「軍師官兵衛」	●黒田官兵衛（岡田准一） ●室町～安土桃山
2015年	「花燃ゆ」	●杉文（井上真央） ●江戸～大正
2016年	「真田丸」	●真田信繁（堺雅人） ●室町～江戸
2017年	「おんな城主 直虎」	●井伊直虎（柴咲コウ） ●室町～安土桃山
2018年	「西郷どん」	●西郷隆盛（鈴木亮平） ●江戸～明治
2019年	「いだてん ～東京オリムピック噺～」	●金栗四三（中村勘九郎）／田畑政治（阿部サダヲ） ●明治～昭和
2020年	「麒麟がくる」	●明智光秀（長谷川博己） ●室町～安土桃山
2021年	「青天を衝け」	●渋沢栄一（吉沢亮） ●江戸～昭和
2022年	「鎌倉殿の13人」	●北条義時（小栗旬） ●平安～鎌倉
2023年	「どうする家康」	●徳川家康（松本潤） ●室町～江戸
2024年	「光る君へ」	●紫式部（吉高由里子） ●平安
2025年	「べらぼう ～蔦重栄華乃夢噺」	●蔦屋重三郎（横浜流星） ●江戸
2026年	「豊臣兄弟！」	●豊臣秀長（仲野太賀） ●室町～江戸

関ヶ原の戦いで敗者となった武将が主人公となった初の作品。

『天地人』
- 全２巻
- 火坂 雅志
- 文春文庫

2025年現在、既存の歴史小説を原作とする最後の作品

『西郷どん！』
- 全２巻
- 林 真理子
- 角川文庫

11月新刊インフォメーション

ご注文は同封の注文書にてお願い致します。

一冊でまるごとわかる「里山」入門

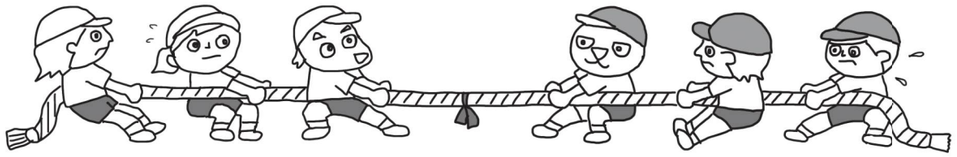
●富田 啓介　●A5並製　●本体1,900円
●978-4-86064-807-7

里山とは、人の手が入った森林や農地が存在する山地･丘陵地･台地のことです。おもに奥深い自然環境と人が多く住む地域のあいだにあって、独自の生態系が築かれてきました。日本では古くから物語や唱歌に登場し、生活に欠かせない場所として親しまれていました。
これまで里山は、人の手が入ることによって豊かな自然環境が維持され、「資源」「水源」「砂防」「生物多様性」「緩衝緑地」など、様々な役割を担ってきました。しかし近年は、その魅力が注目されつつも、里地里山は減少･荒廃し、様々な問題を引き起こしています。最近、クマが人の居住地域に出没するようになったことも、里山のような緩衝地帯が失われていることが理由の一つと言われています。
本書では、日本人にとって身近な自然環境であった里山について、その景観の成り立ちや生態系、そして役割･機能から保全までを、科学的･歴史的･社会的な視点でわかりやすく解説しています。「里山って何?」という方でも、写真や図版を豊富に盛り込んだこの一冊で、里山にまつわる事柄の全体像が理解できるようになっています。長らく里山の実地研究と保全活動に携わってきた里山湿地研究所の地理学者が著した、まったく新しい「里山の教科書」です。

「セラミックス」のことが一冊でまるごとわかる

●齋藤 勝裕　●A5並製　●本体1,800円
●978-4-86064-810-7

セラミックスというと、粘土などの天然鉱物を混合し、成形、焼成して作られる陶磁器などをイメージする人が多いと思います。もちろんそれは代表的なものですが、家やビルを建てるのに欠かせないガラスやセメントもセラミックスです。さらに、現代ではファインセラミックスが産業、医療、経済を支える超重要な要素となっています。ファインセラミックスとは、高純度な原料や人工的に合成された原料を使用し、精密なプロセスで製造された、より高性能な材料のことをいいます。本書では、まず古典的なセラミックスの歴史と科学を紹介し、セラミックスの化学的･物理学的な性質を見たうえで、ファインセラミックスの製法と性質などを解説していきます。セラミックスのことが一冊でまるごと学べる入門書です。



ぶかぶかのベレー帽

バンドウ

モナ・リザのニスを剝ぐ

フランスの匂い、パリの匂いのするものが大好物です。文学でいうと、最近のものではパトリック・モディアノ、ミッシェル・ウェルベックは読み漁りました。特に“良くも悪くも”な現代のフランス、パリを感じられるウェルベックは最高でもあり最低（良くも悪くも）でもあります。彼以来、現代のフランス人作家をそれほど追っていなかった中、久しぶりに出会ったのが『モナ・リザのニスを剝ぐ』（ポール・サン・ブリス）でした。大好きだった『パリ左岸のピアノ工房』の新潮クレスト・ブックスから登場した“スキャンダラスな”一冊です。1983年生まれの作家は本書がデビュー作で、既に本国において数多くの賞を受賞しています。

ルーヴル美術館の絵画部門ディレクターを務める人物を中心に《モナ・リザ》の修復をめぐる物語があらゆる角度から展開されていきます。民間出身でビジネスセンスに長けた新しい館長からこの絵画の修復を求められ、主人公が苦悩するところから始まっていくのですが、リアリティのある話の展開は、現実に起こったことをなぞっているのではないかと思えてくるほどです。

実際に、絵画の修復は様々な作品に施されてきています。つい最近に修復された有名な作品に、ドラクロワの《民衆を導く自由の女神》があります（ルーヴル美術館蔵）。2023年から2024年にかけて6か月の期間で行なわれ、過去の修復の際に塗り重ねられていたニスを取り除くことなどによって色は鮮やかによみがえり、今まで見えていなかった描写まで詳らかになりました。この作品は1830年の製作ですが、《モナ・リザ》の製作は1503年から1519年頃とされています。ドラクロワの有名な作品からさらに300年も遡った時代のものなのです。全地球上で最も有名であると言えるこの絵画に触れることは簡単なことではありません。失敗は絶対に許されないのです。

物語ではパンデミックの影響などから営業的に持ち直すための起爆剤としてル・ジョコンド（フランスでの呼び名）の修復実現に突き進みます。誰が修復をするのか、展示できない期間はどうするのか、世論をどのように味方につけていくのか、など課題は山積です。さらに修復計画の公表をきっかけに、レオナルドの故郷イタリア国内では「私たちの作品に触れるな」と批判が巻き起こり、絵画の返還を求めて大規模なデモに発展します。国と国の問題も絡んでくるのです。

いつかこの（フランスとイタリアだけではない）人類共有の宝が、現実に修復される日はくるのでしょうか。その時、ラ・ジョコンドはどのような色を我々に見せてくれるのでしょうか。物語を超えて想像は膨らんでいきます。壮大なテーマを緻密に描いてくれたこの作家さんの次の作品が今から楽しみです。

小さな書店さんレポート

旅と暮らしがテーマの本屋さん アンダンテ

2024年11月、東京都文京区、都営三田線「千石駅」から徒歩2分のところに、旅と暮らしの本屋「アンダンテ」がオープンしました。30坪の小さなお店ですが、お店の半分がガラス張りになっていて、外から見ても、また中に入っても、おだやかな時間が流れている素敵な雰囲気のお店です。

「旅」と「暮らし」に特化した品揃え

アンダンテの店内は、大きく「旅」と「暮らし」のゾーンに分かれています。売上的には、ちょうど半々くらいでしょうか。「旅」ゾーンについては後ほど（【ここが「推し」です】の項）触れますが、「暮らし」ゾーンには、例えば「食」の一部としてコーヒーやお酒の棚を作り、そこで関連するエッセイや小説、プロ向けの実用書などをひとまとめにして揃えています。

ただ、いくらセレクト型の書店とはいえ、街に根付いた書店でなければならないとも思っていますので、多くの方が求めるようなベストセラーもある程度は置くようにしています。

こんなフェアをやっています

開店時から続けている「文京区の本」というコーナーがあります。最初はオープン時のみの予定だったのですが、ずっと売れているので、もう常設のようなフェアになっています。

今（2025年6月時点）は、「キャンプ・山登り」「日本美術を知ろう」「自分を整える」などのフェアを行っています。

「自分を整える」フェア

お店のことを知っていただくために

オープン時に新聞の折り込みチラシとポスティングによる告知をしましたが、予想以上に効果がありました。「商品をお買い上げいただいた方に、プレゼントをさしあげます」という内容を記載したのですが、多くの方がそのチラシを持って来店して下さいました。それ以外に、最寄りの駅に看板広告を出したり、インスタやXといったSNSによる情報発信を行ったりもしています。SNSには、日々入荷する新刊をあげていますが、それを目当てに来店してくださるお客さまもいます。おかげさまで30代～50代の女性を中心に、幅広い層のフォロワーさんが増えています。

オープン時には、行列ができるほど多くのお客さまにお越しいただきました。レジに立っていると、多くの方に話しかけられることにビックリしましたし、「本屋さんができて嬉しい」「お店を作ってくれてありがとう」と言ってもらえることが嬉しかったです。

ここが「推し」です

「旅」の棚が推しです。

いわゆるガイドブックだけではなくて、その国を知ることができるエッセイや小説、その国を学ぶための本や語学書など、さまざまな書籍を揃えています。国内は県別、国外であれば国別にして、多角的にその場所を知ることができるような棚にしているつもりです。

大型書店さんだとジャンル別やフロア別に分かれてしまうものでも、ここでは同じエリアに並べることができますので、お客様が予想もしていなかった本と出合うきっかけになるような棚にしたいと思っています。手はかかりますが、小さな本屋だからこそできることだと思いますし、それが、お客さまに面白さとして伝われば嬉しいです。実際、一つのエリアに関して複数冊まとめて買われるお客様が多く、私たちも、もっと様々なジャンルの本を結びつけてご紹介できればと思っています。

「旅」国別

「まだまだお客様のご要望には応えきれていません」という前田店長。今後も売り場を通じて「新たな発見」を提供してくれそうです。前田店長、お忙しい中、時間を割いてご協力いただき、誠にありがとうございました。

※アンダンテを運営する産業編集センターさんが、書店を創られた経緯や、熱い思いなど、本編に載せきれなかったお話がたくさんあります。そちらは、弊社のHPに完全版を掲載しますので、是非ご覧になってください。

〒112-0011　東京都文京区千石4-39-17
都営三田線「千石駅」A4出口より徒歩2分
JR山手線「巣鴨駅」南口より徒歩10分
営業時間：11–20時（土日祝日は19時閉店）
定休日：毎週月曜日（別途夏季･冬季休業あり）

公式 HP